第３回岩倉市自殺対策計画推進委員会　議事録

日時：平成30年１月10日（金）
午後２時～
場所：市役所７階　大会議室

１．あいさつ

委 員 長：皆さん、こんにちは。第３回自殺対策計画推進委員会を開かせていただきます。３月になりますと自殺対策強化月間となり、数の多い時期とも言われます。今回、計画の中で、現状として数字がたくさん出てきました。例えば、人口に対する割合などが出てきますが、対策は数字だけでなく、一人ひとりの背景を捉え、支援し、支えていくことになると思います。計画の部分に関してみると、具体的にゼロをめざすとは書きにくい面はあるのですが、ぜひ、自殺に追い込まれる人をなくすという想いで、計画を推進していけたらと思いますので、活発な議論をお願いします。

２．議　題

【資料１】第２回岩倉市自殺対策推進協議会　議事録
【資料２】誤字脱字等訂正一覧
【資料３】各課意見一覧

(1)　自殺対策計画について

委 員 長：自殺対策計画について、事務局から説明をお願いします。

※　資料・計画案に基づき事務局説明

委 員 長：ありがとうございます。自殺対策計画推進委員会が推進していく計画となるわけですが、皆さんいかがでしょうか。今回の会議を経てパブリックコメントになりますので、細かく確認、ご意見をいただきたいと思いますので、章ごとに進めていきたいと思います。

まずは第１章です。４ページの図を、内容は変わらないですが、変更があると説明がありました。第１章に関して、確認やご意見はありますか。

森山委員：２、３ページに、※印で用語の説明がされています。例えば、自殺死亡率や自殺総合対策推進センターについてです。本文中に、※印をつけるとわかりやすいと思います。

委 員 長：それは、ぜひ本文中に※印を入れて、説明という形にしていただきたいと思います。自殺死亡率は２ページの本文の最後に出てくるのでここに※印をつける、自殺総合対策推進センターは３ページの１、２行目に出てくるのでセンターの後ろに※印をつけるということで修正してください。

髙御堂委員：５ページの学校関係ヒアリングについて、この文章ではスクールカウンセラーと

ありますが、説明では子どもと親の相談員にヒアリングしたとありましたが、このままの表記でいくのか、スクールカウンセラーを子どもと親の相談員に変えるのか、並列にして、今後スクールカウンセラーに対してもヒアリングを行っていく予定があるのか、お聞かせ願いたいと思います。

事 務 局：子どもと親の相談員に統一したいと思います。

委 員 長：実際にヒアリングを行った子どもと親の相談員に修正をお願いします。他に意見等はありませんか。

また最後に全体の意見を聞きたいと思うので、第２章に移ります。６ページの(1)の自殺者数の推移は削除、８ページの(3)、９ページの(4)が(1)(2)となり、７ページの自殺死亡率の推移を(3)とするということで、修正をすると説明がありました。そうすると、人口動態統計の説明がなくても大丈夫であり、地域における自殺の基礎資料の説明だけにすると混乱がないということで、いわゆる自殺統計の説明が始めに出てきます。14ページの(11)の説明文と図表との関係がわかりづらかったので、もう一度整理していただきます。他、皆さんからお気づきの点をお願いします。

高御堂委員：５ページで、(2)にあるこころの健康に関する住民意識調査の結果が第２章の中で出てきますが、(3)にあるヒアリングの結果が、私が読んだ限りではどこにもないと思います。アンケートは20歳以上の調査で、小学生などの若い人はデータとして出てこないので、書きづらい部分はありながらも、25ページの「岩倉市における課題のまとめ」の「若者の自殺者」や「利用しやすい相談体制」の中で触れるなど、少しでもあると、ヒアリングを行った結果が見えると思います。あえて一項目とするのは大変なので、25ページのどちらかの中ならば、簡単に収まりそうではないかと思います。子どもたちが悩みを持っていることと、学校として命の大切さを伝える教育に課題があるなどの内容があるといいのかと思います。

委 員 長：私も気にはなっていたことではあります。事務局、説明をお願いします。

事 務 局：おっしゃる通りだと思います。せっかく行った調査ですし、委員のご指摘にあった25ページの「若者の自殺者」のところで言及するように、事務局で案をつくりたいと思います。

委 員 長：ヒアリングの意見の内容がなかなか載せづらいものなので、具体的な内容はありませんが、委員の意見のように、直接的なものではなく課題として載せていただければと思います。事務局が言うように「若者の自殺者」の中で言及していただければと思います。事務局にお願いしたいと思います。

櫻井委員：説明を受けていると、男性の自殺者が多くて、女性よりも心が折れやすいというか、強いように見えて、本当はメンタルの面では弱いと受け取ったのですが、そういう部分の分析はどこかありますか。

委 員 長：性別の分析に関しては８ページにありますが、事務局からはいかがでしょうか。

事 務 局：現実的に、男性の自殺が多いということは、岩倉市に限ったことではないのですが、

そのような現状があるところが埋もれてしまっている部分があるかもしれません。現状と課題のところで、男性のことを強調するものを考えたいと思います。

委 員 長：25ページの課題のまとめの中で扱うとはっきりすると思います。若い人、高齢者、無職と言うようにあるのですが、男性に関する事柄を書くのがいいと思いますので、事務局にお願いしたいと思います。他にご意見はありますか。

それでは進めたいと思います。第３章に入ります。27ページに基本理念があり、28ページに基本方針、30ページに施策の体系となっています。いかがでしょうか。

森山委員：27ページの基本理念の３行目のところで、「本市では、「第４期岩倉市総合計画」で、岩倉市の将来都市像を「健康で明るい緑の文化都市」とし、「多様な縁で創る『役立ち感』に満ちた市民社会をめざす」という基本理念のもと」とありますが、将来都市像は、第４次の総合計画ではなく、第１次のときからあるものです。ここは、例えば、本市では、将来都市像を「健康で明るい緑の文化都市」とし、「第４次岩倉市総合計画」の中で、「多様な縁で創る『役立ち感』に満ちた市民社会をめざす」という基本理念のもと、という形でないと、これを素直に読むと、第４次の総合計画の中で将来都市像を「健康で明るい緑の文化都市」としたと読めると思います。

委 員 長：今言っていただいた通りで、わかりやすくなったと思います。本市では、将来都市像を「健康で明るい緑の文化都市」とし、「第４次岩倉市総合計画」の中で、「多様な縁で創る『役立ち感』に満ちた市民社会をめざす」とするとわかりやすいと思います。

事 務 局：そのように修正します。また、第４期となっているところを第４次と修正します。

森山委員：30ページに施策の展開の図があります。この中の４の(4)にある「支援者への支援」ということがわからないのですが、これはどういう意味なのですか。

委 員 長：内容に関しては第４章になるのですが、36ページにあるものが「支援者への支援」の中身になります。支援する者を支援するということなのですが、もっといい表現はありませんか。表現を変えるということはできますか。

事 務 局：支援者への支援というのは座りが悪いかもしれません。内容としては36ページにあるように、実際に福祉サービスを提供している人は、直接自殺のリスクの高い人と接する機会が多いなどの背景があり、サービスを提供する人のメンタルヘルスや、常に市民の相談を受け、直接的にそういう方たちと接している市の職員のメンタルヘルスということですので、題名で中身が見えるようにしたいと思います。

委 員 長：方向性としては、主な取組としてメンタルヘルスという言葉があるので、支援する者のメンタルヘルスの向上、のように具体性を持たせるということでお願いします。あと、30ページの施策の体系のところで関係するところなのですが、１から４までが一般的なところで、５、６、７が重点施策となっています。このもとになっているのが、25ページの岩倉市の課題です。１から４が基本的な支援体制の構築として、５、６、７が具体的な取組である重点施策として、大きく２つに分けて見出しをつけて、１から４と１から３とすると、より岩倉市の計画となるかと考えます。これは、第４

章の構成とも関わりますが、施策の項目立てを大きく２つに分けて、基本施策と重点施策に分けると、最後に出てくる数値目標、40ページから基本施策、41ページから重点施策の数値目標となるかと思います。せっかく★印をつけていただいているので、もう少し強調した項目立てにしたらいかかでしょうか。よろしくお願いします。

●●委員:27ページの基本理念の５行目､｢こころの健康に関係する計画｣と書かれていますが、岩倉市の健康づくり計画となるので、「こころの」をとって、健康づくり、としていただきたいと思います。

委 員 長：27ページの上から５行目、「こころの」をとって、健康づくり、としてください。その他いかがでしょうか。

それでは、第４章に入ります。第３章の施策の体系から、具体的な施策の展開として、31ページから記載されています。説明の中でありましたが、38ページの「働き盛りの世代への支援」について、(1)が「働く人におけるメンタルヘルス対策」、(2)が「無職者・生活困窮者への支援」となっていますが、25ページにあるように、無職の人への支援により重点を置くため、(1)と(2)を逆転させまして、(1)を「無職者・生活困窮者への支援」した方がいいかと提案がありました。それでは、７つの項目がありますが、ご意見がありましたらお願いします。

河村委員：30ページのところで、基本施策と重点施策の２つの見出しをつけるとのことでしたので、第４章もそれにのっとって、上に見出しをつけるといいと思います。

委 員 長：初めの１から４が基本施策、５、６、７が重点施策として振り直して載せてください。

その他、どうでしょうか。33ページには民生委員さんにゲートキーパー研修を受けていただくなど、具体的なものが書かれています。

河村委員：そのような機会を設けていただければ、参加させていただきたいと思います。

委 員 長：37ページには、ＳＯＳの出し方に関する教育があるのですが、学校関係とはすでに調整済みですか。

事 務 局：具体的な取組、内容についてはまだ出てはいませんが、学校教育課からはこれで出すことに了解を得ているので、これで進めていきたいと思います。

委 員 長：多様な分野に関わってくるわけですが、これらの施策について、第５章、40ページから42ページに具体的な目標、指標が示されています。2023年の自殺者数をゼロにするということを数値目標としています。委員会では、ここの進捗状況を確認いただくことになると思いますが、何かお気づきの点はありますか。第４章と関連させて見ていただくといいかと思います。

櫻井委員：「高齢者の居場所づくりと役立ち感の醸成」というのが39ページにあるのですが、その中で居場所づくり、役立ち感というのは、他の人と触れ合うことで出てくるものではないかと思い、世代間交流を促進することなども大事ではないかと思います。そのような言葉も入れてもらえればと思います。

委 員 長：具体的に高齢者福祉で、世代間交流の機会があればいいのですが、なければ新しく始めることになります。

櫻井委員：ないことはないのですが、非常に積極的にというわけではないと思います。高齢者だけでは疎外感を持ちますし、居場所づくりや役立ち感には結び付かないかと思います。

委 員 長：39ページの(1)の中の「サロン活動等の通いの場の充実」の説明で、世代間交流という言葉を入れてください。

森山委員：42ページの「働き盛りの世代への支援」の表の中で、有職者の自殺者の減少、無職者の自殺者の減少の後のかっこ書きは必要ですか。

事 務 局：おっしゃる通り、現状のところに書いてあり、必要ないので削除します。

委 員 長：指標のところも、(5)、(6)、(7)が重点施策となるので、見出しをつけて番号を振り直してください。

米井委員：40ページの数値目標ところで、2023年の自殺者数を０人とするとなっていますが、2023年だけを０人にすると読み取れるかとも思います。他のところをみると、2023年までに０人にするだとか、そういう書き方をしているところが多いかと思います。先ほど、何％減というものではないだろうと説明があり、そうだとは思いますが、他の計画を見ていると、50％減だとか、何％以下にするだとか、そのような表現をしているところが多いと思います。ゼロというのはどこもゼロにしたいとは思います。ただ、ゼロとしてしまうと後で苦しくならないだろうかとも思います。

事 務 局：国の目標ですと、2026年までに自殺死亡率が30％減、県では、2022年までに14.0以下とするとしています。事務局では、30％減らすだとか半分にするというのは、もともとの数が多くないものですから、逆に空虚な目標となってしまう、それよりは、しっかりとめざしてくものとしてゼロと考えたのですが、ここは委員の皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。

委 員 長：０人をめざすということは重要なことだとは思います。ただ、数値目標としてゼロとなると、数字に縛られてしまう面もあり、悩ましいところですが、皆さんどうでしょうか。

小川委員：自殺総合対策大綱の基本理念の中で、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」とあるので、０人でいいと思います。何％とかではあまりピンとはこないのですが、０人とするとわかりやすいと思います。

委 員 長：４人を半減させて２人とすると、２人はいいのかという感じもします。半減はいいですが、２人と書くとよくない気がします。

小川委員：１人でも、その人はその人しかいないので、私は０人がいいかと思います。

米井委員：もともとの母数が少ないと、１人の違いで率は大きく変わってしまう場合があります。そのため、人数で表したゼロという形が現実的かと思いました。一方で、母数の少ない市町では、５年間で自殺率を半減するという書き方をしているところもありま

す。

河村委員：言葉の表現の仕方はさまざまあると思いますが、目標なので、取組を継続して、段階的に自殺をする人を減らしていくということが伝わるものがいいと思います。

事 務 局：目標の設定について、いろいろなご意見をいただきました。やはり、めざすのは、ゼロにしたいということが強い希望です。大切な命ですので、１人でもそのようなことがないようゼロをめざしたいと思います。ただ、それを2023年までに、というようにしてしまうと、期間があまりない、割と短い期間ですので、最終的にめざすところはゼロだとしたいと思いますが、現実的に国や県の計画は一定の期間で、現状より30％以上の減少としています。そういった形の数値も入れることができればと思います。最終的な目標はゼロとしたいと思いますが、皆さんのご意見をいただけたらと思います。

宮部委員：理想としてはゼロとすることですが、実際には、計画を作るということを考えると、数をまずは減らそうと、先ほどから意見が出されています。全国レベルでは、ゼロには絶対になりません。ただ、岩倉市では可能性があるのかもしれませんが、目標を立てる上では、あまりはっきりとゼロという形よりは、減らすことを強調していく中で、人数を出してしまうと何人ならいいのかとなってしまうので、例えば割合を出して、その30％を減らすとすると、よりゼロに近い数値目標になっていくのではないかと思います。０人としたとき、では、０人にならなかったときはどうなるのか、2023年に１人でもいたら、この計画はどうなのかと考えると、目標をパーセントなどで示して、例えば、30％削減するとした方が、後々取り組みやすいと思います。この５年間で、自殺対策は終わりません。その後にも続いていくものです。そういうことを踏まえて考えると、割合で示して国や県のものに近い何％削減するとした表現の方がいいかと思います。理想の０人はもちろんいいですが、市民に出すのであればそのほうがいいと思います。

長谷川委員：先ほど宮部委員からあったように、ゼロというのは理想でもありますし、目標としてわかりやすさでいえば、割合で表記された方が判断しやすいかと思います。

大子田委員：ゼロはあくまでも理想として大事にしたいと思いますが、現実的な目標として考えると、ゼロではなく、何％減少などの目標がいいと思います。

森山委員：できるだけゼロに近づけるということが計画の目標なのでしょうが、実際にゼロというのは難しい数字ですので、県のように、何年かを基準に30％減らすとするという表現でいいのではないかと思います。例えば、2017年の数字をもとに、それより30％減らすという表記にして、表をつけずに、文章で表すこともできると思います。

高御堂委員：2017年の４人という数字が出てしまうと、ゼロとしなければならなくなるので、限りなく減らしていくということが伝わるものがいいと思います。

委 員 長：最終的にはゼロをめざすということを書きつつ、数値目標としては、例えば、2017年の自殺死亡率を半減させるとして、4.2などの数字で、もちろんそれを下回ればも

っといいわけです。

事 務 局：人数を出してしまうと４人ですから、ゼロにするしかありません。１人などにはできません。市民の方が、自殺を考えている方が見た場合、これは自分だと感じてしまうかもしれません。人数を出すわけにはいかないと思いますので、文章の中で、この計画では最終的にゼロをめざすこと、また、自殺死亡率でみた場合、これはまた事務局内で検討しますが、半減なり、国に準じて30%なり減らす、というように考えます。文章の中で、最終的にはゼロにすること、その過程として、この計画では自殺死亡率で表した目標を決め、人数を出さないように検討したいと思います。

委 員 長：それでは、第６章に移ります。何か意見はありますか。そして、参考資料として、これまでの取組が記載されています。これの補足として、資料３が配られています。

事 務 局：本来であれば、事前に事務局で各課と調整してお示しすべきでしたが、調整が間に合いませんでしたので、資料３として各課からの意見をまとめました。内容としては、補足や表現を変えるなどが主だったものです。こちらで問題がなければ、事務局で資料３のように修正しようと考えています。

委 員 長：それでは、気になるところがあればよろしくお願いします。

宮部委員：内容はこれでいいと思いますが、43ページの「計画の進行管理」のＰＤＣＡサイクルについて、どのように評価と見直しをするのか、そのサイクルをどのような期間で考えているのか教えてください。５年間の計画ですので、１年に１回、この委員会を開いて行うのか、それとは別の、市の各部署が集まって行うのか、具体的なことが書かれていないのですが、どのようなイメージを持っているのかお聞きしたいと思います。

事 務 局：計画についてはこの会議で３月に策定します。４月以降、施策の展開というところをもとに、具体的な検討が必要なところは検討し、実行します。この委員会を、年に２回開催したいので、半年に１回開催し、最初は検討している対応についての報告となると思います。３月に予定している２回目で、検討や施策の結果等について報告し評価を行います。その中で、次年度をどのようにしていくか、改善や計画を行います。

この自殺対策計画推進委員会というのが、今年度初めて設置したわけですが、この計画の策定だけではなくて、策定後の進捗管理と施策や取組をどのように行い改善していくかということも、皆さんからご意見をいただきながら進めていきたいと思います。定期的に開催し、42ページなどにさまざまな現状や数値の指標が示されていますが、そういったものも毎年度お示ししながら、評価を行いたいと思いますので、よろしくお願いします。

委 員 長：44ページ以降にある関連施策についても、状況等を確認するということです。先ほどあった、サロンでの世代間交流など、部署をまたいでの話となるかもしれませんが、取組等の確認もできたらいいと思います。

それでは、全体を通して気になる点がありましたら、お願いします。

事 務 局：27ページに、この計画の基本理念を掲げてありますが、これについてこの会議の中でご意見をいただく機会がなく、初めてお示ししましたが、今一度何かお気づきの点やご意見があればいただきたいと思います。ここで、「健幸のまち」と「幸」を使っていますが、これにつきましては、文章の中にある平成30年12月１日の市制記念日に岩倉市は健幸都市宣言をしまして、健康で幸せな暮らしということで、「幸」という字を使っています。それに基づいて理念のところも、このような表記としています。

委 員 長：数値目標の中にも、「幸せだと感じる人の増加」とありますので、「幸」ということも、この計画とあっていると思います。

河村委員：「気づき」「つなぎ」「見守る」「いのち支え合う」という４つの言葉が連なっています。覚えにくい感じはします。どの言葉をどのようにしたらいいかわかりませんが、「気づき」「つなぎ」「見守る」「いのち支え合う」、順番に考えて、住みやすいいわくらのまちである、ということだとは思いますが、他にわかりやすいものがあればと思います。

委 員 長：私の解釈では、「気づき」「つなぎ」「見守る」で切れて、「いのち支え合う健幸のまち」と改行されているところで意味を区切ってあると思います。

河村委員：そのようにみると意味がわかります。

櫻井委員：これは自殺対策計画なので、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現をめざすということはわかりますが、その前に、肯定から入りたいと思いますので、いきいきと誰もが生きられる社会をめざし、自殺に追い込まれることのない社会の実現をめざすなど、前向きで元気の出る言葉があるといいと思います。

小川委員：私もそう思います。「気づき」というと、自殺をする人がいることが前提にあると感じます。先進諸国との差を考えると、日本の自殺率が高いと自殺総合対策大綱にもありますが、自己肯定感がない、気持ち的に追い込まれてしまうような社会の雰囲気が自殺させると思いました。「気づき」から始まるよりも、自己肯定感が持てるような言葉があるといいと思います。幸せというのはその人が感じるかどうかであって、人からはあの人は幸せに見えるということなので、本人が幸せであることが大切だと思います。死にたいと思う人は、生きづらいから死にたいと思うのであって、生きづらくない、そのための施策に市としても取り組んでいると思いますが、地域づくりも大事であると感じています。行政が行うと、どうしても縦割りになってしまうということで、今やっていることやこれから行うことなどをまとめていただきましたが、そこをどうするのか、私も悩ましいところですが、そういうことがもう少し何とかならないかと思います。

森山委員：自己肯定感等も必要ですが、自殺対策の基本理念ということだと、「気づき、つなぎ、見守る」から入るといいと思います。社会全体としてそういうものをなくすと考えると、一人ひとりが自己肯定感を持って、幸せを感じて、生きる意味を感じることが大事ですが、自殺対策の基本理念と捉えると、気づいてつないで見守るということが重

要であるため、このような理念になったのかと思います。違ったものであれば、自己肯定感から入って、幸せを感じ、生きる喜びとなるといいと思います。

委 員 長：私もあまり引っかからなかったのは、対策から入っていたからかと思います。

森山委員：自殺を未然に防ぐために、早めに気づいたりだとかが大事なのではと思います。だから、このような理念になったかと思います。

小川委員：自殺総合対策大綱の数値目標の説明文で、先進諸国と比べて日本は自殺が多いということが書かれています。それが日本の風土なのかと思います。知り合いで、こころの電話にかけるとか、そういう人もいますが、そういうところにかけられない人が問題かと思います。どのようにしたらいいかは、難しいかと思います。

森山委員：世の中全体で、お隣の人が何をしていても関係ないというような、地域社会が希薄になってしまっていると感じます。地域社会の中で昔みたいにつながりがあって、最近隣の人の顔を見ないとか、少し暗くなったとか、そういう気づきから声をかけて未然に防ぐようなことができればいいのですが、今はそういうものがないので、みんなが気配りをして気づくような環境になればいいと思います。

委 員 長：下の「いのち支え合う」を「つながり支え合う」とすると、地域の支え合いを表すと思ったのですが、上の文章とは折り合いが悪く、「気づき」「つなぎ」「見守る」のつなぎと重なってしまうと考えていました。支援につなぐということがこの計画では大事だと思います。

河村委員：「いのち支え合う」を「つながり支え合う」として、上の「つなぎ」がなくてもいいのではないですか。

事 務 局：「いのち」という言葉は入れたいと思います。

森山委員：「いのち」を入れるなら「気づき、つなぎ、見守る　いのちを大事にする健幸のまちいわくら」とかでしょうか。

河村委員：上が３つに区切られているので、下も区切ってしまうと、言葉の羅列になってしまうと思います。

委 員 長：説明文の中でそのことを書いて、少し補足するという形ではどうでしょうか。上は計画の位置づけや健幸都市宣言などが書かれているのでそのままにして、地域のつながりや交流によって実現し、いきいきと暮らせるまちをめざすと入れてみてはどうでしょうか。

事 務 局：基本理念に込めている想いを文章化して皆さんに伝わるようにします。

委 員 長：この「健幸」の説明を増やすなどをすると、一人ひとりの幸せについても補えると思います。理念を説明する文章を入れるといいと思います。健幸都市宣言に「人と地域とのきずなをつむぐ」とあるので、そういったところをピックアップしながら、そういったことが人生を豊かにし、生きがいや楽しさをつくってくというような、想いを文章にして入れていただければと思います。

　他はよろしいでしょうか。それでは進めていきます。

３．その他

事 務 局：委員の皆様には貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後の予定として、皆様からいただいたご意見を計画に反映します。自殺対策計画は、広く市民の方々のご意見をお聞きするため、２月からパブリックコメントを実施し計画の完成とする予定です。次回は３月15日（金）午後２時から７階の大会議室で予定しています。ご出席をお願いします。

※　健康課から健幸都市宣言等について説明

委 員 長：健幸都市宣言の４、５をみると、この計画にも関連することがあると感じました。予定では、パブリックコメントがあり、３月15日が最終決定となります。先ほど出していただいた意見を反映して、パブリックコメントに出して、場合によってはパブリックコメントを踏まえてさらに修正をしていくと思います。よろしくお願いします。

委員から質問等はありますか。よろしければ、本日の議題は以上となります。これを持ちまして会を終了します。ありがとうございました。

以　上